

事業の実施状況等について(受託者自己評価)

【旭区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会・関西総合研究所)

取組実績の評価(1)

項目		ア 事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	イ 地域への支援実績に対する自己評価	ウ 支援の有効性についての自己評価	エ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等
事業の実施状況	(1)「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●地活協ラウンドテーブル(ワークショップ)の開催 ●人材育成事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●ラウンドテーブルとして、防災点検まち歩き支援、防災スリッパ作りなどは子どもたちにも好評であった。 ●平成26年度防災点検まち歩きを10地域全域で支援を実施。地域住民の横断的な情報交換につながった。 ●平成26～27年度、構成団体長会議を全10地域で実施(第3回からワークショップ)。団体相互の理解促進につながった。 ●平成27年度は6地域で完了。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災を切り口に、地域住民と一緒にまち歩きを実施することで、地域課題を共有することができた。 ●構成団体長会議は地域の課題の共有につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域のビジョンや課題の共有のため、防災をテーマとするだけでなく、地活協各支部の構成員同士の連携を強める取り組みが必要である。
	(2)「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●魅力的な広報のツール・コンテンツづくりによる参加の促進 ●区民祭りなどの市民協働事業の支援 ●プロボノを利用した地活協と企業との連携・協働 ●市民協働スペース「旭まちづくりサロン」の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページ支援は10地域すべてで開設されている。 ●プロボノによる広報支援ができた。 ●かわら版作成支援が順次進んだ。 ●市民協働事業開催の支援を実施(8月30日区民まつり) ●平成27年1月17日3校合同防災の分かれ道と新聞紙スリッパづくりを実施。地域と学校、学校同士の連携につながった。 ●平成26年度1DAYプロボノでFB(フェイスブック)を立ち上げ(古市)、まちづくりセンターにFBを立ち上げ、広報活動が広がった。 ●平成27年度は1DAYプロボノ終了、清水(かわら版)、大宮(フェイスブック)。平成28年1月末現在、フェイスブック計6地域となった。(古市、太子橋、大宮、生江、城北、高殿南)。 ●市民協働スペースの利用が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●広報の重要性が地域に浸透した(ホームページ、かわら版) ●3校合同防災の分かれ道、新聞紙スリッパづくりは学校同士、地域と学校との連携促進につながったと思われる。 ●プロボノは企業人と地活協との協力により新しい価値観を地活協に提供することができた。 ●旭まちづくりサロンは、市民が自由に利用できるスペースとして有効であると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●組織づくりについては、構成団体長会議や支部の開催で一層支援していく。 ●これまでに蓄積されたノウハウを推進させていく必要がある(会計システム、ホームページ、まち歩きのみとめ方法など)。 ●防災について、小中学校と地域の連携を、より一層展開していきたい。 ●広報の分野でのプロボノの利用により、地域が実際に体感した有効性を広報していく。 ●市民協働スペースを更に利用しやすくすることが課題(例えば、団体資料の保管場所を提供するなど)
	(3)「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●組織運営の基礎チェック ●事業実施支援 ●会計事務支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●総会開催に向けての資料作成を支援した。 ●組織づくりについての支援を実施した(大宮部会構成変更、中宮部会構成変更、高殿役員構成) ●平成26年度防災点検まち歩きはワークショップ形式で円滑に進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事務支援としての分かりやすい会計処理ソフトは、担当者に安心感をもってもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業実施は防災関係に特化することで多くの人の参加を促したい。 ●会計支援は、平成27年度から事業全体の収支報告が必要となり、地域に広く浸透させる必要がある。領収書宛名明記を徹底していただく必要もある。
	(4)「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の実施状況				

取組実績の評価(2)

項目		ア 事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	イ 地域への支援実績に対する自己評価	ウ 支援の有効性についての自己評価	エ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等
事業の実施体制等	(1)自由提案による地域支援の実施状況(企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ●プロボノを利用した地活協と企業との連携・協働(再掲) ●市民協働スペース「旭まちづくりサロン」の運営(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成27年度1DAYプロボノでFB(フェイスブック)を有効利用(大宮)、かわら版作成支援(清水)で、広報活動が広がった(再掲)。 ●市民協働スペースの展開が進んだ(再掲)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●企業人と地活協との協力により新しい価値観を地活協に提供することができた(再掲)。 ●旭まちづくりサロンは、市民が自由に利用できるスペースとして有効であると思われる(再掲)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●広報の分野でのプロボノの利用により、地域が実際に体感した有効性を広報していく(再掲)。 ●市民協働スペースを更に利用しやすくすることが課題(例えば、団体資料の保管場所を提供するなど)(再掲)。
	(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	<ul style="list-style-type: none"> ●スーパーバイザー 3日×8H×1名 ●支援員3名 3日×8H×3名 ●コミュニティ育成支援事業 担当 5日×8H×3名 ●事務補助員 5日×4H×1名 	<ul style="list-style-type: none"> ●スーパーバイザー1人、地域まちづくり支援員 3人 ●コミュニティ育成支援事業 担当 5日×8H×3名 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災まち歩きの実行ととりまとめ、かわら版作成により、防災と広報に対する意識が向上した。 ●区民まつりの運営を円滑に進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域が自律してまち歩きやかわら版作成に関われるよう、マニュアル作成や現場での働きかけを強化する。 ●区内の様々なイベント支援を継続させる。 ●構成団体長会議を自前で進められるよう支援したい。
	(2-2)フォロー(バックアップ)体制等	<ul style="list-style-type: none"> ●専門アドバイザー 金井文宏(地活協運営等)、嵯峨生馬(プロボノプロジェクトマネジメント)河原伸一(ホームページ作成支援) 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成27年度プロボノはワンデイプロボノで、専門家が地活協におけるフェイスブック立ち上げ、かわら版作成を支援し、広報が充実した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成25年度、26年度、27年度プロボノは、プロの目からみた外部評価により、地活協のふりかえりが可能になった。 ●平成28年2月5日、プロボノ情報交換会を実施。 ●プロボノの内容だけでなく、地域相互の情報共有が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●プロボノによるプロの企業人と地域活動の連携のため、より一層の支援が必要。
	(3)区のマネジメントに対応した取組	<ul style="list-style-type: none"> ●市民協働スペース旭まちづくりサロンの運営(再掲) ●区役所担当との定例会議を毎月実施(第2金曜日)して、円滑な連絡調整を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民協働スペースの利用が進んだ(再掲)。 ●区役所1階に地活協発行のかわら版を掲示するコーナーを設けて貼りだした。また、一般の方々に配布用の棚を設け、自由配布を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●かわら版の公開により、より広く地活協の広報が可能となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●かわら版とホームページの重要性を認識してもらう必要があるため、今後とも支援を継続していく。簡易な情報発信としてのフェイスブック立ち上げも支援していく。

取組効果の評価(2)

項目		ア 取組効果に対する評価	イ 問題点の要因分析	ウ 今後の改善策等
目標等の達成状況	(1) アンケート調査 ・適切であると感じている: 60%以上 ・自律的な地域運営に取り組んでいる: 50%以上	<ul style="list-style-type: none"> ●適切である(支援が役に立っている) = 26年度中間57.9% → 26年度末59.4% → 27年度中間52.8% → 27年度末70.4% ●役に立っていない 26年度中間29.0% → 26年度末23.1% → 27年度中間31.4% → 27年度末19.8% ●自律的な地域運営に取り組んでいる 26年度中間28.3% → 26年度末37.9% → 27年度中間26.8% → 27年度末40.7% ●取り組んでいない 26年度中間51.7% → 26年度末39.6% → 27年度中間45.2% → 27年度末36.0% (注: 26年度中間 → 26年度末 → 27年度中間 → 27年度末: 今回)	<ul style="list-style-type: none"> ●既に自律的な運営がなされていると考えている(特に執行役員レベル)地域が多く、支援の必要性を感じていない状況がある。 ●支援の対象が、地域の限られたメンバーに限定されている実態がある(限定された人材に情報や権限が集中しており、時間的余裕がとれない)。 ●地活協自体の意義や目標とする方向性について共通認識が十分に浸透していない。 ●既存の各団体が協力しあって事業に取り組むという意識が育っていない。 ●小学校と地域とが協力しあう意識が十分に浸透していない。 ●プロボノ情報交換会により、若干の進展がみられたが、全体的な理解は十分に浸透していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域が慣れていない会計支援、事業報告支援、かわら版作成支援を継続する。 ●広報の支援で、テンプレートを導入し、ホームページとかかわら版をリンクさせることで、担当者に負担の少ない運営ができるように支援する。 ●防災など地域住民が感心の高く、且つ共有の分野を課題にし、ラウンドテーブル、ワークショップを実施するなど、地域のビジョンを考える機会を増やす。 ●構成団体長会議の継続により、団体同士の連携強化を促進させる。地活協理解の説明を継続する。部会ごとの役割分担を図っていくように促す。 ●小学校と地域との連携を強化するために、防災授業などを地活協と協力して支援を継続する。区役所と連携して、防災リーダーと地域活動協議会担当部会との連携強化を働き掛ける。 ●プロボノの広報を継続する(平成28年度はワンデイプロボノを7月2日に予定)。
	(2-1) 「地域課題への取組」達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ●防災まち歩きの実施(全10地域終了)により、地域の防災意識の向上が図られた。 ●構成団体長会議(ワークショップ)の実施により、地活協自体の理解が徐々に進んでいる。 		
	(2-2) 「つながりの拡充」の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページ支援、防災まち歩き記録や祭りを掲載したかわら版作成支援などにより、徐々に成果が上がっている。フェイスブック支援により、6地域が開設した(26年度プロボノ活用で1地域、27年度プロボノ利用で1地域、4地域は個別支援)。かわら版は新たに地域を加えて5地域が自主作成するようになった。 ●区民まつりに地活協ブースを提供することで、一定の広報ができた。 ●平成27年1月17日3校合同防災教室(今市中、古市小、太子橋小、古市地活協、太子橋地活協)の実施により、学校と地域の連携が一步進んだ。2月8日は高殿地域において、ジュニア防災リーダー発足(15名)。 ●平成27年9月6日、生江ジュニア防災隊員(5名)発足。9月14日、新森ジュニア防災団(7名)発足。 ●平成27年度土曜授業支援は7校(生江、大宮、高殿、古市、高殿南、新森、大宮西=中宮) ●プロボノに参加(25年度1地域、26年度1地域、27年度2地域)。プロの企業人と地域の連携は、お互いの啓発につながる。平成28年2月5日プロボノ情報交換会で地域同士の情報交換が進んだ(9地域25名が参加)。 ●ふれあいサロンを訪問し合う「ふれあい 知り合い 見学ツアー」を地域で実施。サロン開催者と会長の情報交換が進んだ(城北→大宮、大宮→城北。生江⇄高殿南計画中)。 ●市民協働スペース「旭まちづくりサロン」の開設により、市民活動団体の利用が進んだ(15名程度の会議が可能。パソコン・プリンター常備)。 		
	(2-3) 「組織運営」の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ●地活協全体に対する理解は進みつつあるが、特に「部会」構成に対する理解が遅れている。 		
	(2-4) 「区独自取組」の達成状況			
(3) その他の効果のあった内容				

総合評価

総合評価 I	(1) 地域課題等の把握・分析・整理	<ul style="list-style-type: none"> ●区全体: 過去の地域振興会(連合)が中心となった発想で様々な取組が進んでおり、参加する構成団体同士の相互理解・連携強化が必要である。 ●各地域: 地域活動協議会の理解、運営委員会が最高決定機関であるという認識、民主的な事業と予算の決定、会計の透明性、広報の重要性、などが十分浸透していない状況も見受けられる。
	(2) 目標(支援策)の明確化とそこに向けた戦略・シナリオの策定	<ul style="list-style-type: none"> ●現場で活動される方々が、他地域・他団体と話し合う交流機会を持つことで、地域活動協議会に対する理解を深めることを目的として、構成団体長会議(連合振興町会からも1人だけの参加)、ふれあい知り合い見学ツアー、プロボノ情報交換会、広報関係の個別支援等を実施している。しかし効果的な支援には至っていない状況もある。
	(3) 区のマネジメントに合った取組	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月1回の区役所担当者との定例会、毎月1回の区役所地域担当者との連絡会などにより、認識の共有化は図られているが、地域の状況や個性に対応した支援が必要である。
↓		
総合評価 II	総合評価(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ●防災点検まち歩きの実施、子どもと地域に対してのワークショップ「防災スリッパ作り」の提供、かわら版作成、ホームページやフェイスブックの作成、会計ソフトの提供など、地域の人と人をつなぐ取り組みと、事務的支援、事業実施支援、構成団体長会議の開催など、成果は上がっている。 ●平成27年1月17日、3校合同防災教室が地域住民・保護者とともに実施され、世代を超えた連携の一步となった。平成27年2月8日、高殿地域において、ジュニア防災リーダー結団式が実施された。平成27年9月には生江、新森の2地域にジュニア防災組織が立ち上がり、世代間の取り組みが進みつつある。 ●今後は、改めて自律的な地域づくりに向けて、執行役員の共通理解の向上、構成団体相互の連携強化、担い手の育成につながる交流機会の提供、広報活動の支援、会計処理の支援、事業実施の支援、防災をテーマとした学校と地域の連携強化などを図っていく必要がある。